

視点を、変える。解決を、超える。

2024年問題を共に超える

リードタイムの短縮

okamura

課題

法改正でリードタイムが長期化 ----- 03

リードタイム長期化による懸念 ----- 04

輸送モードによる対応 ----- 05

ソリューション

オカムラの視点 ----- 06-07

ロボットストレージシステム オートストア ----- 08

オートストアができること ----- 09-11

リードタイム長期化を回避 ----- 12

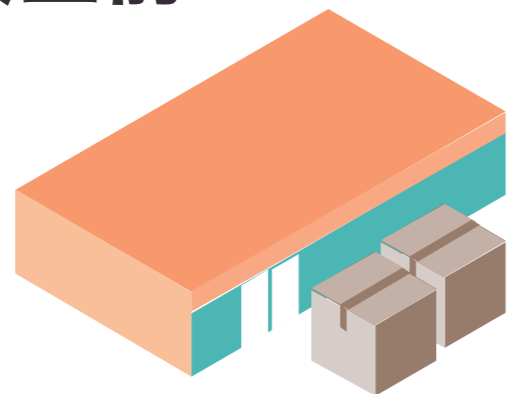
オカムラのピース・ケース品ソリューション ----- 13

物流システムショールーム[ルクス]の紹介 ----- 14

2024年4月の法改正でリードタイムが長期化

1日の走行距離が短縮

改正前



物流センター (DC)

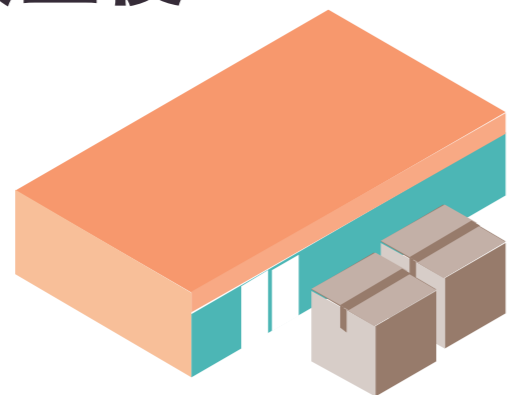


1日



納品先

改正後



物流センター (DC)



運転に関わる様々な規制 ※

運転時間: 9時間以内 (2日平均の1日あたり)

連続運転時間: 4時間以内

休憩時間: 4時間運転毎に最低30分

2日~3日



納品先

ドライバーの労働時間の改善により、1日あたりの走行距離が短縮。

現状のリードタイムで運べなくなる

リードタイム長期化による懸念

ドライバーの労働時間の改善により、1日あたりの走行距離が短縮。



現状より納品リードタイムが延び、1運行あたりの単価も増加。
ジャストインタイムでの輸配送も困難になる。



サービスレベルの維持が難しくなってしまう。

輸送モードによる対策

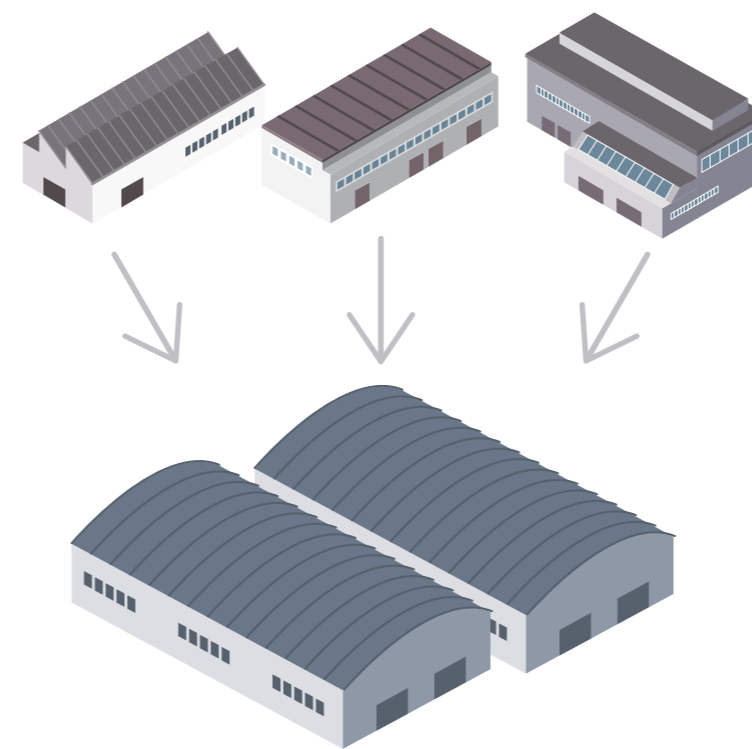
中継輸送

ドライバー交代
荷物積替など



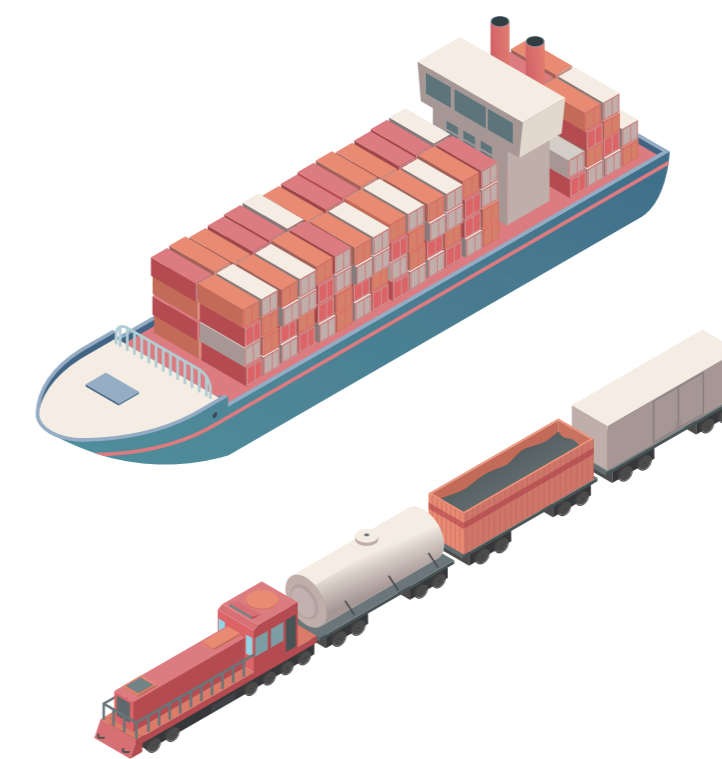
共同配送

複数企業が連携



モーダルシフト

鉄道や船舶に変換



輸送モード対策の課題

リードタイム

コスト

ルート

積載

オカムラの視点

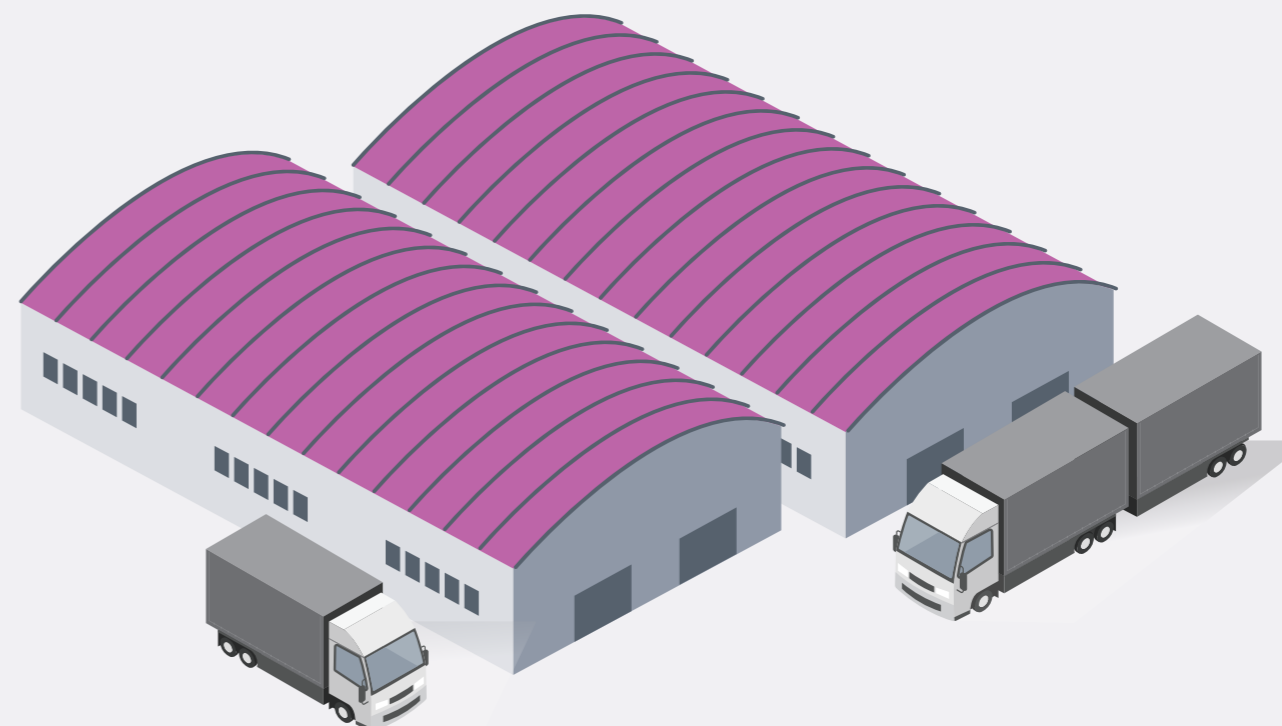
輸送モード



MODE



物流拠点



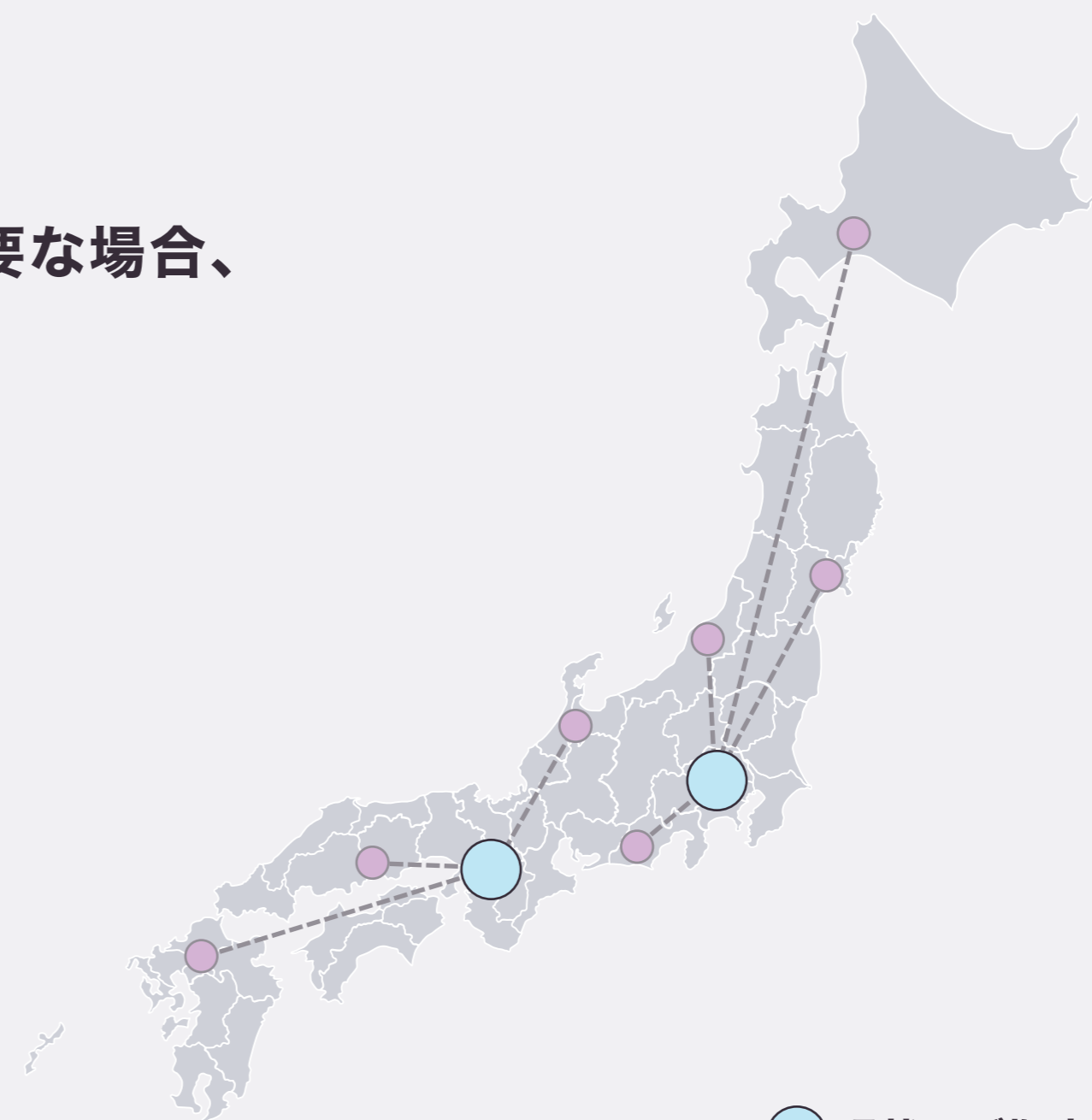
NODE

オカムラの視点

一部の地域拠点を 「在庫を持つストックポイント」にする

現状の顧客サービスレベルを維持することが経営戦略上必要な場合、一部の地域拠点を「ストックポイント」にすることで、エンドユーザーへの配送距離を短くしリードタイムを維持することが可能。

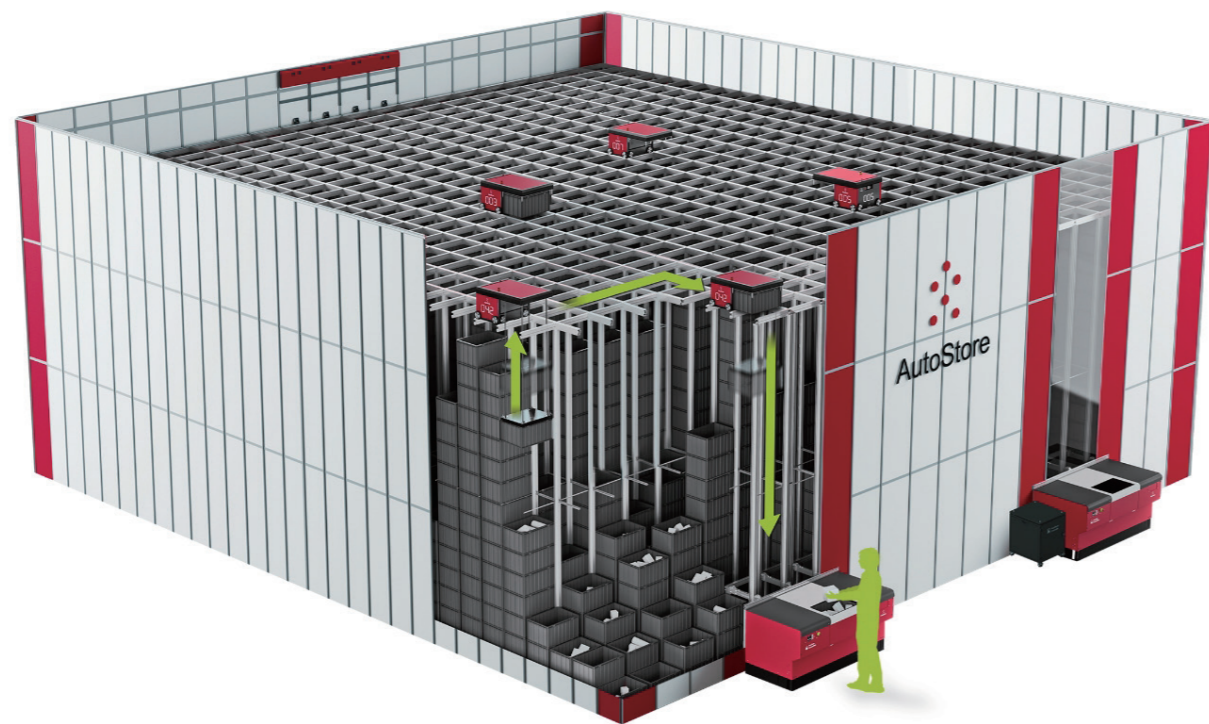
積載率向上によりトラックを少なくできる
長距離輸送削減と定期便での輸送計画ができる
ロット・パレット単位での輸送が可能となる



● 現状ハブ拠点
● 地域ハブ拠点

AutoStore

ロボットストレージシステム オートストア



オカムラが地域拠点を在庫拠点にする際に、既存のスペースを大きく拡大せず、在庫管理を簡素化し、少ない作業員で運営するソリューションとして**オートストア**をご提案。

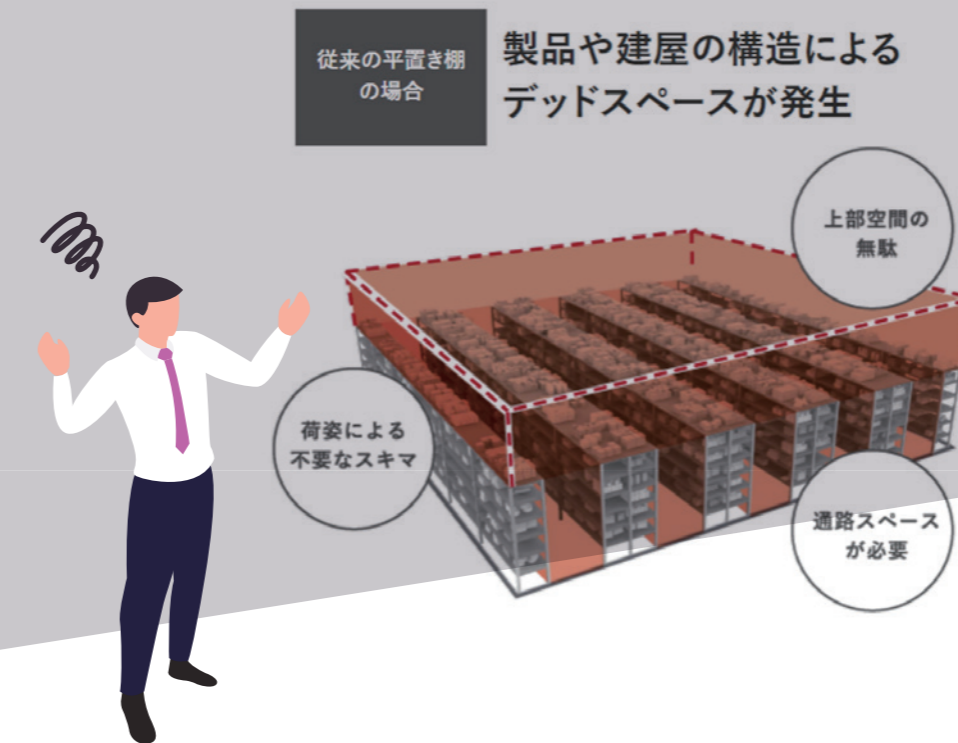
オートストアは格子状に組まれたグリッド内に、ビン(専用コンテナ)が隙間なく格納され、その上を縦横無尽に走行するロボットが作業員の待つポートへ目的のビンを搬送。

このシンプルな構造によって、あらゆるユーザー条件にあわせた設置・運用を可能にし、導入後も成長・変化にあわせてフレキシブルに対応。

オートストアでできること 01

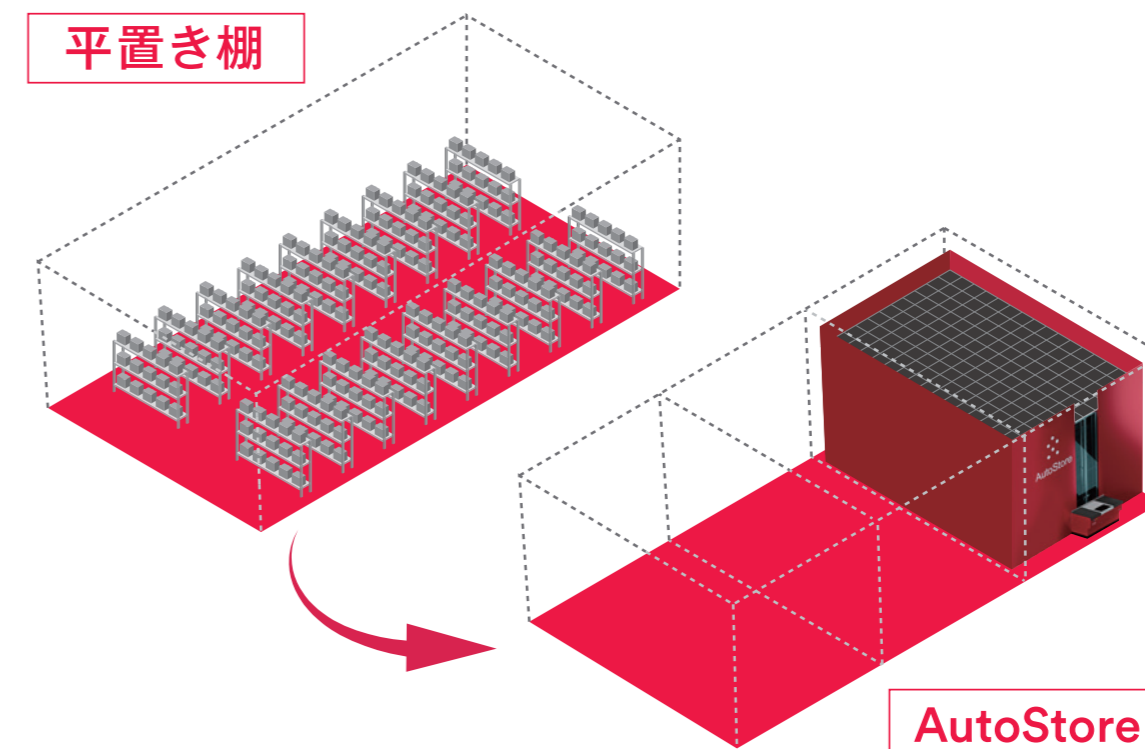
ストックポイントの課題

在庫を大量に持つためには現状よりも多くのスペースが必要になり、建て替えるのも借りるのも費用がかかる。



オートストアなら解決!

荷姿による不要な隙間や使用していない上部空間や通路スペースを無くし、コンテナを隙間なく積み上げた高密度収納により平置き棚の約1/3のスペースで収納可能。



オートストアでできること 02

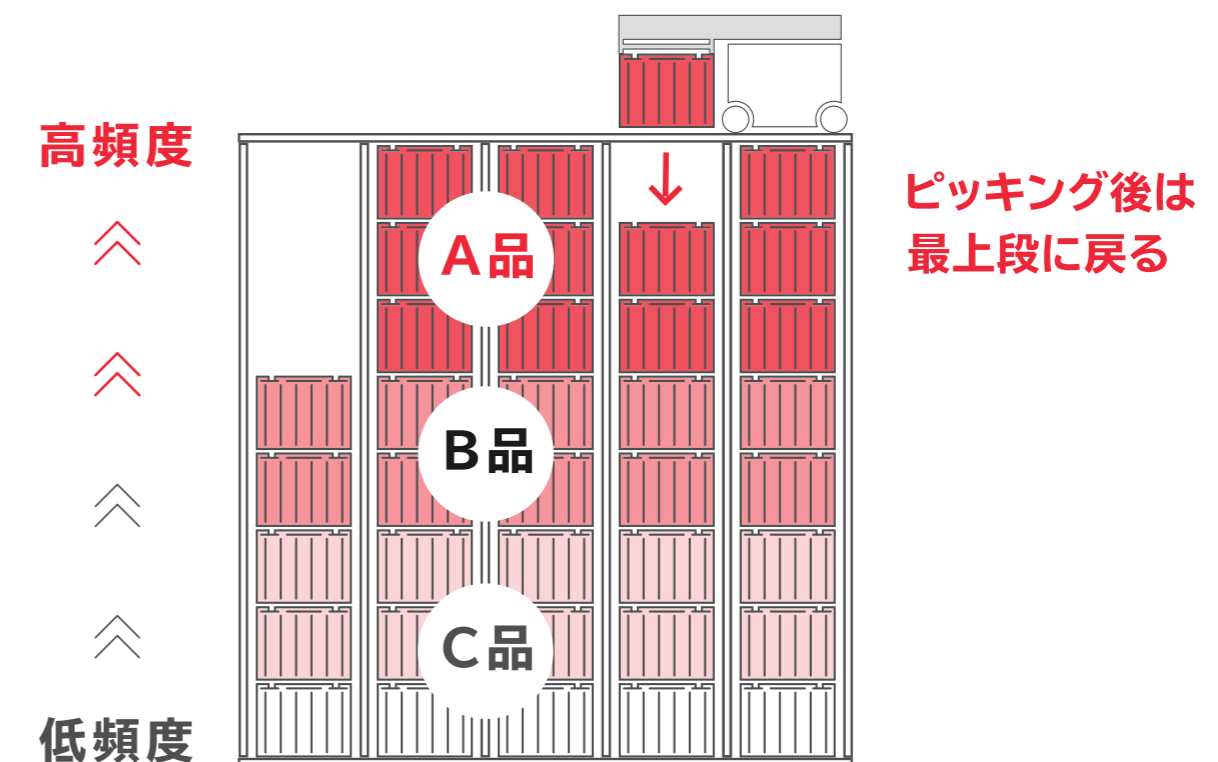
ストックポイントの課題

在庫を大量に持つためには、
在庫数の確認や保管場所などの管理が大変になる。



オートストアなら解決!

在庫管理はフリーロケーションで運用が可能。
入庫(再入庫)と出庫を繰り返していくうちに、
高頻度品が上層部に集約されていき、
入出庫にかかる時間が自然と短縮される。



オートストアでできること 03

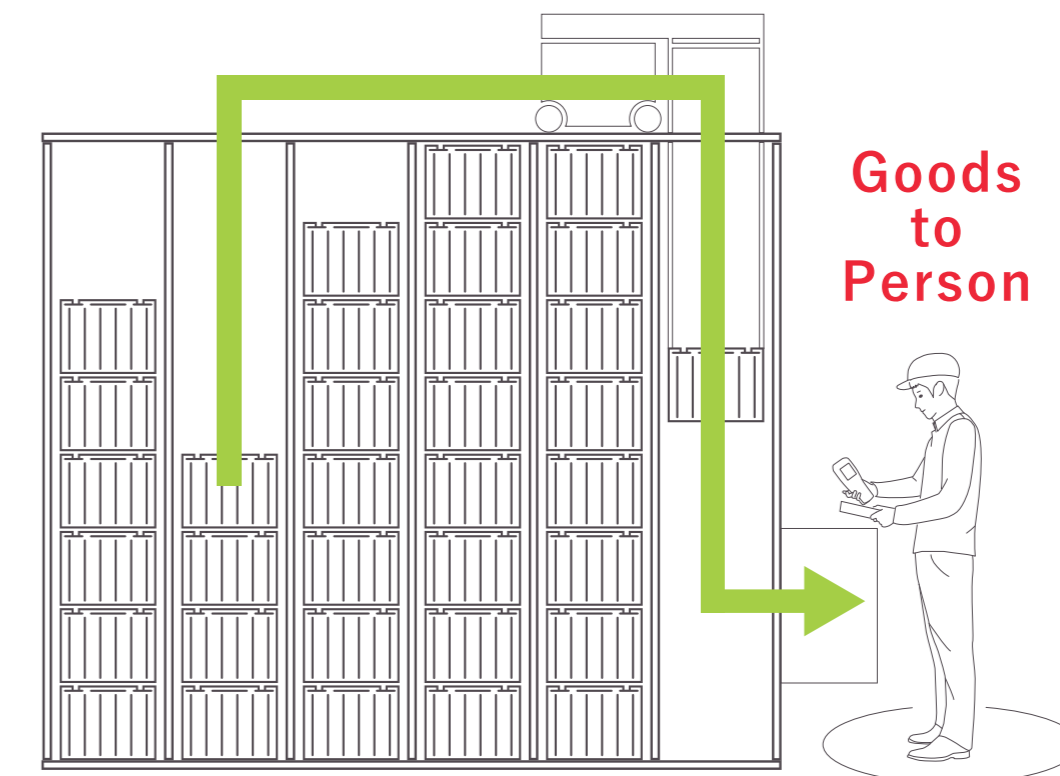
ストックポイントの課題

在庫が増える事により
入在庫・仕分け作業の量や負荷が増加してしまう。



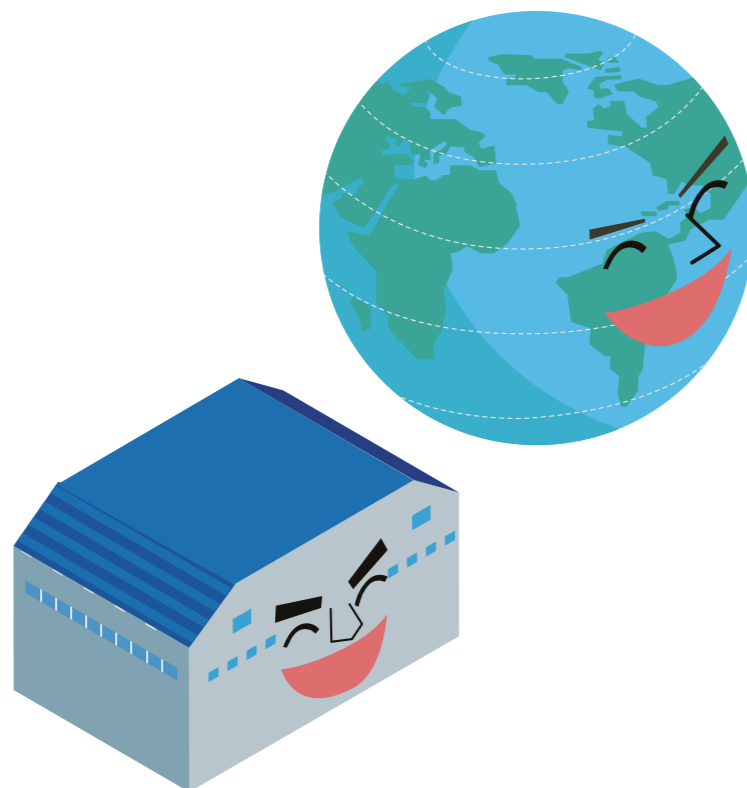
オートストアなら解決!

Goods-To-Personの原理により、
作業者は歩き回ることなく、**定点でピッキング・補充可能。**
シンプルなオペレーションと負担のない姿勢で、
作業効率が大幅に向上し、人にやさしく省力化に貢献。



リードタイム長期化を回避

オートストアなら、既存のスペースを拡大せず、
地域拠点を在庫を持つストックポイントにすることが可能。
在庫管理の簡素化や少ない作業員で運営可能な拠点となり、
また顧客への配送距離が短縮され、
顧客が望むリードタイムを実現可能。



地域拠点が在庫を持てれば、ロットやパレット単位での積載が可能となり、
トラックの積載効率もアップ。輸送回数を減らすことができるため、
CO2の排出削減にも寄与できる。

さらに在庫を分散して持つことで災害時のBCP対策にも繋がる。

オカムラのピース・ケース品ソリューション

ロータリーラックH



保管から仕分けまで
多目的に活用できる
高速入出庫タイプの自動倉庫システム

[詳しくはこちら](#)



バケットスタッカー



定型バケット(コンテナ)用
スタッカークレーン式の
高速立体自動倉庫

[詳しくはこちら](#)



オートストア



高密度に収納された
コンテナをロボットが入出庫を行う
人にやさしい
ロボットストレージシステム

[詳しくはこちら](#)



物流システムショールーム[ルクス]の紹介

Logostics (物流) × UX (ユーザー体験)

物流システムショールーム「LUX(ルクス)」は
実際に動く製品を体感・体験して、
新たなソリューションを発見していく**創造的体験型のショールーム**。



機種選定の参考にしたい

作業性や能力を検証したい

製品規模を確認したい

運用イメージを掴みたい

ショールームは完全予約制となっております。
見学をご希望の際は、担当者または下記営業窓口までお問い合わせください。

定例見学会も開催中

初めての方も
ご見学可能！



開催日やご予約については、下記URLまたはQRからご確認いただけます。

ご予約フォーム <https://www.okamura.co.jp/company/showroom/lux/>



関連ページ



物流システム

サービス、製品の詳細など最新の情報はこちらからご確認ください。
<https://www.okamura.co.jp/mhs/>



お問い合わせフォーム

マテハン・ロボット等の導入やお見積りの相談など、どうぞお気軽にお問い合わせください。
<https://www.okamura.co.jp/inquiry/mhs/>

OKAMURA

物流システム事業本部 マーケティング部
<https://www.okamura.co.jp/>
株式会社オカムラ2023年9月1日発行